



南っ子だより



学校教育目標 「共に輝く たくましい 南っ子」

重点目標 「あふれる笑顔 熱い瞳 まぶしい汗」

文責 森 佐和子
伊豆市柏久保 425-1
0558-72-0149

全国学力・学習状況調査の結果

【本校・伊豆市・全国の平均正答率の比較】

	国語	算数
伊豆市	○	○
本校	○	○

◎・・・全国より高い

○・・・全国と同程度

△・・・全国より低い

本年度の全国学力・学習調査(対象は小6)の結果が示されました。上の表は、全国の平均正答率と伊豆市、本校の6年生の結果を比較したものです。

全国学力・学習状況調査の目的は「各学校が児童の学力や学習状況の現状を把握し、子どもたちの学力向上のための取組み(改善)に生かしていくこと」にあります。そこで、今回の結果を受けて、教職員で傾向と対策を考えるとともに、各学年段階で身に付けるべき力についても話し合いました。本校の分析の一部ですが、ご報告いたします。子どもの「できた」「分かった」につながるような指導方法を一層工夫していきます。今後とも様々な面で、ご支援・ご協力をよろしく申し上げます。

☆上記の通り、平均正答率は国語・算数ともに全国と同程度でした。全国と比べて無解答率が低くなっており、どの問題にも一生懸命に取り組んだ姿が浮かび上がってきました。



☆国語について

「自分の考えをまとめて書く」ことについては、文章を読んで理解したり、話し手の考えと比較したりして、自分の考えをまとめることができていました。一方、パンフレットから情報を整理したり、言葉と言葉の関係性を理解したりするところに苦手さが見られました。

☆算数について

「図形」の領域については、正答率は高くないものの全国の正答率を上回っていました。しかし、わり算の筆算の各段階の意味が不確かだったり、二次元表から条件に合う数を読み取るのが苦手だったりする表われが見られました。

問題を解くためには、前学年までの学習を確実に定着していくことが大切です。また、市の分析結果にもあるように、**図表やグラフなどから複数の情報を正確に読み取る力も必要**となってきます。

そのような力を付けるためにも、学習指導要領を基に、各学年の身に付けるべき力を把握し、1年間を通じて系統立てて指導していくことを再度、職員で確認しました。「話す・書く」力の向上のためにも、話形を身に付けたり、自分の思いに即した言葉が伝えられるように語彙を増やしたりしていくことも大切です。また、自分の生活に結びつけ、「学習したことは、生活に生かせる」ということを実感しながら学習をすることで、さらに各教科への興味関心を高め、理解を深めていくのではないかと感じました。

南小の子どもたちの実態を把握しながら、授業や家庭学習において、既習事項が定着するような、主体的に学びたいと思えるような場面を設定し、積み重ねていきます。